

育児と就労に関するニーズ変化と対応は

町長 父親の子育て参加をさらに推進する



録画を配信

町民ニーズの変化

問 育児と就労に関するニーズの変化をどう捉えているか。

町長 「フルタイム就労の母親」が平成30年度の調査と比較し、3・6%増加し74・7%。「父母ともに育児を行っている」が9・6%増加し71・5%。父親の育児休業取得は13・4%。

父親の子育て参加をより一層推進し、働き方や生活の見直し等の啓発を図る。



よこやまかずひろ
横山和浩 議員

健康福祉センター

問 改修による具体的な支援機能強化とは何か。

町長 コワーキングスペース、キッズスペース、託児室、ベビールームなどを整備（土日や夜間利用も調整中）し、オンライン予約などデジタル技術も活用し利便性の向上を図る。



病児・病後児保育

問 町内に病児等保育施設がない。どのように対応していくのか。

町長 小児科医不在など町単独実施には課題がある。置賜管内の子育て支援施設は広域利用体制があり、利用料は全額助成。周知と情報収集に努める。

問 利用には登録が必要だが登録者数は。

健康福祉課長 登録者数は26人で昨年度は2世帯が利用された。

児童発達支援センター

問 3年目を迎える児童発達支援センター「にこっと」の評価を伺う。

健康福祉課長 一日あたり児童発達支援は5〜7人、放課後等デイサービスは10〜11人の利用があり、概ね適切な支援が提供できていると聞いている。

問 常に満員状態で場所の確保が課題とのご意見がある。どのようにに捉えているか。

健康福祉課長 ほかの事業所と調整を図りつつ、長期的な利用を予測した上で、事業所の考えも伺いながら体制整備を図りたい。

町長 人材確保は容易でなく、今後の見通しなどを立て関係者のご意見を伺い対応したい。



私たちが支援します「にこっと」

子育てタクシー

問 子育て家庭を支援しようと、タクシー会社が「子育てタクシー」を提供している。利用状況はどうか。

健康福祉課長 登録者数は27人だが、利用実績はないと聞いている。今後も県と連携し広報を継続したい。

私もひとこと

子育てタクシーは知らなかった。子どもの公共施設利用のための移動支援も期待したい。
(30代女性)

